

様式3 令和4年度 小金井市立小金井第二小学校 自己評価まとめ							
学校教育目標  人権尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和がとれ、心身共に健康で、主体的に学ぶことができる児童の育成を図るとともに、国際社会に生きる資質・能力を育てる。 ○心豊かな子ども ○自ら考え行動する子ども ○健康な子ども							
目指す学校像(ビジョン) 【目指す学校像】 ○子どもが「今日も登校してよかった」と実感する学校 ○チーム力を生かし主体的に課題を解決していく学校 ○地域・児童が、母校に誇りをもてる学校 【目指す児童・生徒像】 さ:さわやかにあいさつ く:クラスの友達と仲良く ら:楽しい仕事は友達に大変な仕事は自分から 【目指す教師像】 ○子どもへの愛情に溢れ職務を全うする教師 ○絶えず自己研鑽に励む教師 ○明るく元気で前向きな教師							
前年度までの学校経営上の成果と課題 【成果】 令和2・3年度に、校内研究において体育の授業改善を行ったことで、コロナ禍における児童の体力向上と教員個々の指導力を高めることができた。 【課題】 集団への適応や登校に不安を抱える児童の相談体制が十分に機能しなかった。ICT機器を有効活用した授業づくりについては、学年差があり十分な実施に至っていない。							
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
人権 精神重 の 育 成	1年:特別支援教室見学・体験 2年:言語聴覚障害指導学級理解授業 3年:特別支援教室理解授業 4年:知的障害学級との交流 5年:言語聴覚障害指導学級理解授業 6年:特別支援学校理解授業	3.9	3.6	・全学年で障害理解授業を計画通りに実施している。5年は小平特別支援学校のコーディネーター、6年は小金井特別支援学校のコーディネーターによる特別授業を1学期に実施した。 ・今後は、本校の特色ある教育活動として実施している理解授業を保護者に発信し、人権尊重教育について考える機会を提案する。	3.9	3.7	全学年で障害理解授業を実施し、二小のよさである共生社会の実現に向けた教育活動を展開することができた。保護者から、学校現場におけるジェンダーについての対応を求める意見があることから、今後さらに人権尊重教育を推進していく。
	学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を実施する。相談体制を整え、ふれあい月間を中心に、繰り返し児童に周知していく。	3.9	3.5	・全学級で学期1回のいじめ防止授業を行っている。 ・困ったときのどうすればいいかを理解している児童、「先生は子供の話を聞いてくれる」と答えた児童が9割である。今後は10割を目指して、相談体制を充実させていく。	4	3.5	生活指導夕会、学期1回のいじめ対策委員会、年3回のいじめ調査を実施することでいじめの早期発見・早期解決に努めることができた。児童への質問「先生は子供の話を聞いてくれる」に肯定的な回答の割合は94%であった。今後も100%を目指して、引き続き児童や保護者の相談体制づくりを進めていく。次年度は校内委員会にSCやSSWが参加できるように調整し、組織的に不登校支援を行っている。
向 授 業 の 推 進 上 ・ 学 力	全教員が個の学びに重点を充てた公開授業を年間1回以上実施する。	3.7	3.2	・全ての教員が1学期中に公開授業を実施した。可能な範囲で授業参観も進んでいる。今後はクロムブックを活用した個の学びを充実させる授業改善や学習効果の検証を進めていく。	3.7	3.3	全教員が、授業改善の視点を提案した公開授業を実施することができた。また、小・中連携交流として、本町小、一中の教員に全学級の授業公開を行い、ICT機器の活用を含めた授業改善に関する意見交流を行うことができた。今後も、小・中連携を通して、個の学びが充実する授業改善に努める。
	ICT機器やデジタルコンテンツ活用の教員研修や情報共有の機会を毎月設定する。	3.3	3.3	・校内研究会において、毎回クロムブックを活用して情報共有・発信を行うことで、教員個々の活用スキルが高まっている。学年間においてもクロムブックを活用した教材共有が進んでいる。しかしながら、活用に個人差があるので今後も研修を行っている。	3.1	3.5	児童は、クロムブックの操作に慣れ、学習の場で活用できている。しかしながら、教員の活用については個人差があり、教員の評価からも十分に活用できていない回答が多い。次年度も計画的なICT研修を行うとともに、実践事例の情報共有を図っていく。
材 地 活 域 用 人 の 材 充 ・ 実 外 部 人	全学年で、地域の外部講師を招いた授業を年間1回以上実施する。	3.8	3.5	・今年度は、各学年で外部講師を招いた学習を再開している。体験的な学習を通して子供たちの学びが発展していくよう今後も外部講師を招聘した授業を計画していく。また、次年度の学年に引継ぎができるようにしていく。	3.8	3.6	感染症対策を講じながら、外部講師を招聘した授業を全学年で実施することができた。また、オンラインでの工場見学を5年生で実施することができた。次年度以降も、外部講師による体験的な学習やキャリア教育に係る学習を計画していく。
	・定期的な情報は月初めに発信する。 ・週1回以上ブログを更新する。 ・ICTを活用した授業実践、二小ハチドリプロジェクトについて公開する。	3.9		・夏休み中にホームページの構成を見直し、9月にリニューアルした。 ・定期的な情報を発信し、週1回以上ブログを更新している。 ・二小ハチドリプロジェクトについては、1学期は芝生の維持活動を発信した。今後は、児童の主体的な活動を発信していく。	4	3.5	タイムリーな情報提供を心がけた。保護者からも情報発信についての質問に対する肯定的な回答が9割であった。また、GIGAスクール構想に係る授業実践報告、二小ハチドリプロジェクトに係る取組を随時HPに掲載することができた。今後も、保護者の立場で考え必要な情報発信を心がけていく。
特 色 あ る 学 校 づ く り	・体育における二小スタンダードを全学級で実践する。 ・学習カードを活用することで、目当ての設定や振り返りを充実させる。	3.9	3.4	・「二小スタンダード」を全学級で実施し、規律ある集団行動が定着している。 ・クロムブックや学習カードを活用した振り返りが充実している。今後も児童の主体性を促す評価を行っている。	3.9	3.4	体力向上を目指した体育の授業改善を進め、全学級で体育指導の二小スタンダードを実践することができた。今後も、クロムブックや学習カードを活用した学習の振り返りを行い、個々の児童の運動に関する取組を評価していく。
	・なわとび、持久走周回を設定し、休み時間の運動を促す。 ・二小サーキットを積極的に活用し、児童に多様な運動を経験させる。	3.8	3.3	・体力向上の取組は、2学期後半から実施予定であり、準備が進んでいる。 ・二小サーキットを活用した運動は推進されているが、外遊びの呼びかけは不十分である。学級指導や保健指導等で、外遊びを通じた心身の健康を促す取組を行っていきたい。	3.8	3.3	12月に持久走周回、1月に縄跳び週回を設定し、子供たちは運動委員会を中心にして主体的に取り組むことができた。また、「二小サーキット」の活用は進んでいるが、子供たちの体力向上への意欲は個人差があり、本校の研究成果が十分に浸透していない。今後も、体力向上を推進する取組を継続していく。
	・学期1回の読書週間を設定する。 ・定期的に学校図書館を整理する。 ・PTAサークルによる読み聞かせを設定する。	3.9		・読書週間では、全校児童がおすすめ本を紹介するカードを作成した。教員の本の紹介カードは夏季休業中に作成することができた。 ・PTAサークルの読み聞かせが充実し、児童の期待が非常に高い。読書週間の読み聞かせイベントは、今後も継続していく。	3.8	3.5	PTAサークルによる読み聞かせや学校図書館の整理等の活動等が充実し、年間を通して児童の読書への興味関心を高めることができた。今年度は、コロナ感染予防のためできなかった読書イベントを実施することができた。蔵書については今後も計画的に新しいものに入れ替えていく。
	・芝生維持に係る児童の活動を二小ハチドリプロジェクトに位置付ける。 ・芝生委員会を中心に、地域ボランティアと共に全職員で整備を行う。	3.5	3.1	・児童は、毎週火曜日の縦割り校庭清掃を進んで行っている。ハチドリプロジェクトについては、委員会活動で児童の主体的な取組が今後実行予定である。 ・教職員は、毎週金曜日に芝生ボランティアと一緒に管理維持活動を行っている。芝生通信を毎月発行している。今後は芝生ボランティアとの協働を	3.5	3.2	SDGsに関する取組「二小ハチドリプロジェクト」として、掃除の時間にたてわり活動で校庭の清掃活動を行うことができた。また、地域ボランティアと、教員、用務主事が連携して芝生維持活動を行うことができた。「二小ハチドリプロジェクト」については、学校便り、ホームページにて発信することができた。今後も、子供たちの主体的な活動を地域に発信し、地域と共に環境を守る活動を行っているよう計画していく。